

たむぎやま

平成 24 年
7 月 20 日 発行

新潟県
田麦山地区館



特集

地域づくり

「楽しく住める田麦山」を目指して

田麦山地域おこしの会では、みんなが住みやすい、明るく楽しい魅力ある田麦山を目指して活動しています。その取り組みの概要についてお知らせします。

◎地域おこしの会

元気な田麦山の創造に
中越大震災復興から今年で八年。この間、大震災と言う大きな試練を、多くの方々の支えと、地域皆で力を合わせて乗り越えて来た。そして、震災で郷土を愛する心や地域の絆を一層深めるとともに、復興を通じ、地域が抱える「過疎」、少子高齢化に伴う「集落の活力」や「集落機能の維持」が懸念されるなど、田麦山の将来の有り様を考え、地域づくりへの思い、気運が高まっていた。

こうした中で、皆で考え知恵を出して、もっと元気な田麦山を創っていかうと、昨年度田麦山連絡会(地区協議会、公民館、いきいき田麦山、田麦山スポーツ振興会、老人クラブ、子供育英会等各種団体で構成)が立ち上がり、今年度田麦山地域おこしの会に改め、新たな地域づくりに向け取り組み、昨年度「田麦山復興デザイン(震災復興基金事業導入)」を策定し、更に今年度はデザイン策定による事業化(震災復興先導支援事業)に取り組んでいる。

◎田麦山復興デザイン策定

「楽しく住める田麦山」を目標に

昨年度、ワークショップを重ね、田麦山復興デザインが策定され、地域の将来像を楽しく住める田麦山を目指し、明るく楽しい地域づくり、田麦山を学び見直し、郷土への愛着心と誇りを持てる地域づくりに向けて取り組みが行われた。

取り組みの主な事として、ふるさとへの思いを込めた「500人の夢パネル」づくり、地域学習「自然、歴史文化、食資源調査」を通じ、まちあるきによるふるさととの「再認識(熊野神社と大杉、大日堂など)」、恵まれた「自然資源の維持活用(ブナ林、魚道、山の相川鳥獣区など)」、田麦山の「歴史(地名の由来「手向ける」、「年表」など)、先人によって培われた「伝統文化の継承(はねおけさの復活)」、田麦山キッチンによる「食資源、一品料理の持ち寄り」などの取り組みが行われ、これらの成果をまとめた「田麦山資源ノート」を作成。

また、公民館を地域の拠り所(地域づくり、地域助け合い、世代を超えたコミュニケーションの拠点)として位置づけ、公民館を①住民の健康の維持(スポーツ、キャンプの拠点、福祉医療の場)②子供たちの居場所(子供たちの遊び、学びの場)③物づくり工房(物づくり、アーティストの工房、物産品づくり工房)④住民の交流サロン(食堂と居酒屋、お茶飲みができるサロン)⑤各種イベント会場(様々なイベントが実施できる空間)⑥宿泊施設(宿泊ができる拠点)等の意見が出され、田麦山の「自然資源」、「歴史、文化」、「食資源」、「拠点としての公民館」の活用を柱とした田麦山復興デザインが策定された。

◎事業化への取り組み

復興デザイン策定成果を基に

地域拠点づくり、地域資源の活用に向け
今年度、復興デザイン策定による成果(実績)を踏まえ、地域復興先導支援事業を導入し、地域づくりアドバイザー、川口地区復興支援川口サテライトの支援と、県、長岡市との協議を進め、地域拠点づくり、地域資源等の活用によるハード、ソフト事業実施に向け取り組んでいる。

●地域拠点づくりに向け

公民館を地域の拠り所に
拠点づくりワークショップの成果を基に、公民館を地域の拠り所、拠点としての整備(空き教室の活用、田麦山の歴史文化、資源等の展示、既存の図書室、木工室の充実、野鳥観察会等のカルチャールームなど)や子供ワークショップによる空き教室を利用した子供の遊び、学びの場の整備を図り、地域づくり、地域助け合い、世代を超えたコミュニケーションの拠点をめざす。

「食堂」を住民サロンに

公民館の食堂を交流サロン(食堂と居酒屋風に、カラオケお茶飲みができるサロン)に整備を図り、地域コミュニケーションの活性化に資する。

「旧学校プール」を花壇に

ものづくり工房の一つの取り組みとして、市の協力により旧学校プールを花壇に整備し、花を植えて育てて心を豊かに花壇づくりを通じて、子供からお年寄りまで世代を超えたコミュニケーション、ふれあいの場として、地域の環境美化活動として取り組む、これに伴い、花壇づくりの会が立ち上がり、花壇の名称を「田麦山なでしこ花壇」に会の名称を「なでしこの会」に決め活動に向けスタートした。

● 地域資源等の活用に向け

資源調査の継続と活用イベント

資源調査を継続し、新たな資源の発掘による地域づくりやイベントを通して、内外に発信し地域のPRを図る

「自然資源活用イベント」の実施

自然資源調査による山の相川鳥獣区における「バードウォッチング」やいきいき田麦山が主催する「ブナ林コンサート」、相川川魚道における「お魚な関門まつり」イベントなどの共催を通じて、いい気づくり活動に資する。

「伝統芸能、はねおけさ」の継承

歴史文化調査を通じて、田麦山の伝統芸能「はねおけさ」が昨年復活し、震災復興七周年記念イベントで発表された。今後各種イベント（敬老会や市の暮らしの祭典など）への出演が期待され、継承活動の充実と保存に資する。

「郷土料理のレシピ、商品開発」

各地で、農家レストランなど、郷土料理による地域おこしが行われている。昨年田麦山キッチンによる一品料理を持ち寄り、田舎料理ならでわの味わいと工夫された料理が寄せられた。この実績を基に郷土料理のレシピと商品開発に向け、おばあさんたちやおかあさんたちによるプロジェクトを立ち上げ、地域の素材を活かした料理講習会やワークショップ、レシピ開発アドバイザーを招き、郷土料理による地域おこしを目指す。

「500人の夢パネル」の完成

引き続き、ふるさとへの思いを込めた500人の夢パネルづくりを進め、住民全員のパネルの完成を目指す。

田麦山の活性化、地域おこしに向け、描いたデザインの実現に皆で協力し活力のある地域づくりに向けて頑張っていきたいと思います。



『将来の夢』

櫻井詩緒里（文造）

私の将来の夢は、IT関係の仕事に就くことです。この仕事に就こうと思った理由は、機械を使うのが好きだからです。そして、もともとパソコンのことを詳しく勉強したいと思ったからです。

まず、その夢を叶えるためには、高校を卒業して、パソコン関係、技術関係の専門学校に入学しなければなりません。

そして高校に入るためには今から苦手な教科を一つでも減らしておき、家の自主学習をがんばりたいです。

そして、専門学校に入ってからには、パソコンのことを本格的に勉強し、それに加えて、必要な資格も取って、この仕事に就けるように努力したいです。

今はまだパソコンのことには詳しくないけれど、今から勉強したいです。



『農家民泊に参加して』

立川国際2-D 38班

上田裕子, 富澤麗, 河合菜奈, 松橋百葉

先日の農村体験ではたいへんお世話になりました。浦井さんをはじめ、田麦山の方々のお力添えのもと、最高の三日間であったと感じております。

今回の農村体験の思い出は多々ありますが、その中でもとくに印象に残っているのは農作業です。ファーム田麦山のみなさんにたすけられながらも、耕運機の操作などをさせていただきました。すごく暑いなか作業があたりまえというように元気に作業されている方々を間近で見、私たちにもやる気や気力がわいてきたように思います。又同時に食べものに対するありがたみを再認識しました。

今回訪ねたあの三日間は、私たちのなかでいつまでも光り続けることと思います。再会を願いつつ、ここで筆を置くとします。

ありがとうございました。

『農村体験学習の受入を通して』

森山俊夫（忠兵衛）

六月十三日から、三日間我が家に東京の女子中学生が滞在してくれました。

早いものでもう、一ヶ月も経ちましたが、昨日の事のようになつかしく思い出されます。部屋を片づけ掃除をし、受入れを整えどんな子供達と会えるのかな・・・と指折り楽しみにしておりました。

三人共、明るくて礼儀正しく、元気一杯の中学生でした。大きな声で返事をし、違和感なく会話が出来る事が不思議でした。若いエネルギーを沢山沢山いただきました。

ごはんがおいしい、お米が甘い・・・と一杯目はおかずにもやらず、ひたすらごはんだけを食べているような光景を見て、私達夫婦はほほえましく見ておりました。米づくりをしている私としては、非常に満足し、うれしい思いになり農業をやっている事に改めて自信を持たせて頂きました。



二日目は、畑に野菜の苗を植えている時に「カエル」が出て来てギヤーギヤーと追いかけて、一緒に写真を取ったり、食事を作り片づけをしたりで楽しくアツという間の三日間でした。

先日、子供達から手紙が届きました。経験した事のない楽しい事をいっぱいありがとう、そして最後の日は逆ホームシックになりました等に、私達を喜ばせる便りを沢山頂き、私達の方こそ感謝一杯でした。中学生生活の思い出の一コマになれば幸いです。

今年も農村体験学習受け入れました。

涌井清嗣（治郎兵）

我が家では今年も農家民泊を受け入れました。

6月13日から15日の2泊3日立川国際中等教育学校生4名を農村体験として4名の女の子を受け入れました。不安と期待の中、急な決定で妻が休みが取れない事を話し、キャンプに来たつもりで自分達の事、食事は自分で準備をお願い、夕食からスタートです。

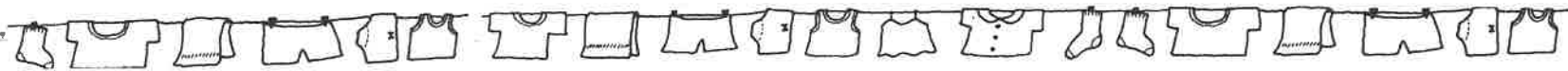
「どんなイメージで田麦山にきましたか」薄暗い家、夜には虫がたくさん入ってくる家、囲炉裏が有るなどで、大きく新しい家にビックリ、田麦山は震災で新築が多いことを説明。

実質1日半の体験はサツマイモ植えなど畑作業、行き帰りの軽トラック、耕耘機作業、ファーム田麦山の皆さんの協力で楽しくできました。

後日届いた手紙には「コンビニが近くにある暮らしが不思議に感じた。トラックの荷台の風が気持ちよかったです。自分たちで作った、ちまき、そばが美味しかった。農村体験の3日間は夢のようだった。」とつづられています。

田麦山の米が美味しかったのか、すごい食欲にビックリしたり、お休みなさいと言った部屋からは何時までも明かりがもれ、話し声や笑い声、楽しそうだったり。

あつという間の3日間、別れ際に「また来てもいいですか」渡された書きには「楽しかった、楽しかった」の連発、目頭が熱くなりバスが見えなくなるまで手を振り、別れました、感動をありがとう。



『川口柔道会のやわらちゃん』

川口柔道会

柔道会には二人の柔らちゃんがいる。一人は中学2年生。もう一人は田麦山の佐藤七海ちゃん（大形 与兵衛）小学校5年生である。2年生から柔道会に仲間入りし、女子が少ない中いつまで続くかなと心配していた。ところが、ほとんど休まず練習に通った。その努力が報われ昨年のBSN大会で三位となり、他の中越地区の大会でも常に上位入賞の成績を残した。今年も県の強化選手に選ばれ、五月の連休明けに講道館の稽古に参加してきた。

六月二十四日に開催された全国小学生学年別柔道大会で見事、二位とけんとうしたものの鹿児島で開催される全国大会への出場権をのがした。今後の活躍が期待される。川口柔道会では、左記の日程で楽しく稽古に励みます。興味のある方は一度のぞいてみてください。

小学生 毎週 19:00
中学生・一般 毎週 19:30
会場 川口文化会館内 柔道室



『孫の成長を思う』

内山美喜子（治郎兵）

七月三日東川口保育園の「七夕祖母お招きの会」に行ってきました。園児の挨拶で始まり歌と続きます。百歳の歌では「おいつくから元気でいてね」との歌詞です。年長組の司会でステージ発表ダンスです。小さい子は愛らしく年中さんは少し恥ずかしげに年長さんは元氣よくさすがと大きな拍手をおくりました。心配な手遊びと肩たたきなどのふれあいです。案の定肩たたきでは、私に背を向け「はい」と言ってきました。これも最後皆様とは反対に私が孫の肩をたたいてきました。0からの出発です。数年でこれまでに、子供たちの成長と諸先生方のご苦勞を感じるひとときでした。地域の皆様、我が家のわんぱく坊主は、ます々エスカレートしそうですが宜しくお願い致します。

『八海山登山のお誘い』

田麦山スポーツ振興会

日時 8月26日（日）
健脚に自信のある方は、あの大河ドラマ「天地人」で一躍有名になった大日岳に登って八つ峰を制覇しませんか。小学生は、保護者同伴での申込みになります。

申込締切り 8月16日
申込先 森山鉄也 090-3042-7057

『おおくやみ』

六月二十一日 大淵 正尚 さん 六十九歳
(前原 傳造)

『編集後記』

暑い毎日が続いています。水分を十分にとり熱中症に気を付けましょう。